

# ポイントシンボルを KML にレンダリングする

表示処理での KML へのレンダリングでは、TNT 製品で使っているものと同じポイントシンボルをグーグルアースでも表示させることができます。作成した KML ファイルはポイントシンボルをプレスマーク（マーカー）として格納し、シンボルはプレスマークのアイコンになります。レンダリング処理中、KML ファイルとともに各ポイントシンボルに対して PNG 形式のラスタが別々に作成されます。これらのラスタがグーグルアースにおいてプレスマークのアイコンとして使われます。KML へのレンダリング処理では、ポイントシンボルを KML または KMZ ファイルにレンダリングすることができます。KML ファイルへのレンダリングを選択した場合、各ポイントシンボルに対して別々の PNG ファイルがローカルドライブに作られ、KML ファイルにリンクします。KMZ ファイルへのレンダリングを選択すると、ポイントシンボルのラスタ全てが 1 つの KMZ ファイルに埋め込まれます。KML や KMZ ファイルを選択するとグーグルアースが起動し、レンダリングされたポイントシンボルがテンポラリプレースとして表示されます。グーグルアースで表示する場合、ポイントシンボルは TNT 製品と同じものが表示されます。レンダリング処理ではポイントシンボルのサイズも調節することができます。必要であればグーグルアースのツールを使ってサイズや透明度を個別に変えることができます。

KML のレンダリングウィンドウにはポイントシンボルをレンダリングするための [オプション (Options)] と [プレスマークコントロール (Placemark Controls)] タブパネルがあります。[Raster Controls] や [Geometric Controls]、[WMS/ArcIMS Controls] パネルは、ポイントシンボルが TNT ウィンドウで他の空間オブジェクトの上に表示されている場合に選択できます。[オプション] パネルでは、ポイントシンボルを第 1 の表示ウィンドウの全範囲に合わせて表示したり、第 2、第 3 の表示ウィンドウの範囲に合わせてレンダリングすることができます。トグルにチェックを入れると、KML ファイルとリンクしたパーツ全部が 1 つの KMZ ファイルに圧縮されます。また、トグルからレンダリングが完了すると自動的にグーグルアースを起動させる設定もできます。[プレスマークコントロール] パネルでは、プレスマークアイコンの大きさやアイコンとして使われる画像のサイズを指定することができます。「Image Size (画像サイズ)」はポイントシンボルに対して作られる PNG ファイルの高さと幅を決めます。画像サイズを初期値より大きくすると、アイコンの解像度は大きくなり、より詳細になります。「Icon Scale (アイコンスケール)」ではグーグルアースで表示されるポイントシンボルのサイズを指定できます。アイコンスケールを初期値から変更してポイントのサイズを大きくしたり小さくしたりすることができます。[Assign icon scale based on view (アイコンの大きさを表示ウィンドウに合わせる)] トグルにチェックを入れると、「Icon Scale」が選択できない状態になり、現在表示されているものに従って自動的に各シンボルの大きさが決まります。

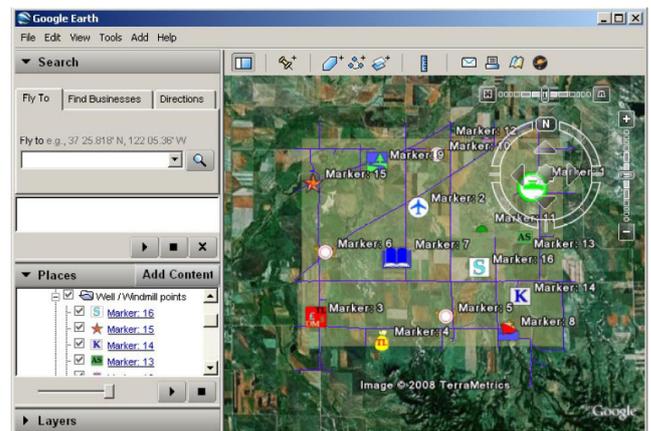
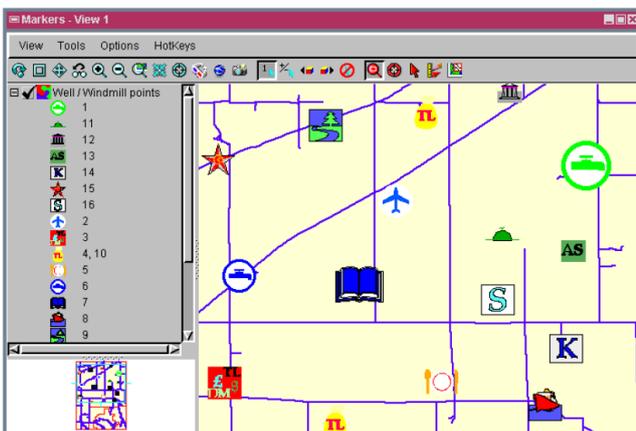
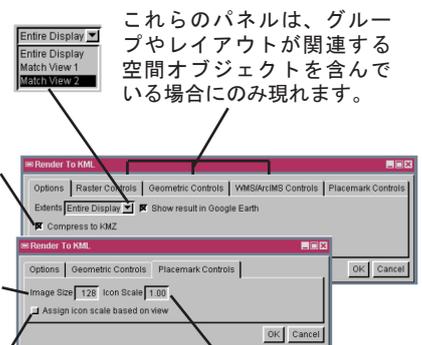
開いている表示ウィンドウまたは全範囲表示を選択して、KML ファイルのレイヤの範囲を指定します。

このトグルにチェックを入れると、KMZ ファイルを作成します。

この値を大きくすると、容量は大きいですが、高品質の画像のプレスマークアイコンを作成します。

このトグルにチェックを入れると、現在の表示に合わせて自動的にスケールが計算されます。

これらのパネルは、グループやレイアウトが関連する空間オブジェクトを含んでいる場合にのみ現れます。



左図では TNTmips においてポイントシンボルが表示されています。右図では左図の TNT ウィンドウからレンダリングした KML ファイルをグーグルアースで表示しています。レンダリング処理で [プレスマークコントロール] パネルで指定したサイズでプレスマークアイコンを表示することができます。また、グーグルアースのツールを使って各アイコンのサイズや透明度を変更することができます。